

『時事直言』 No.1240 2018年4月16日

時事直言ホームページ：<http://chokugen.com>
時事直言 携帯サイト：<http://mobile.chokugen.com>
FAX：03-3956-1313



時事評論家 増田俊男

アメリカの内紛

アメリカの内紛とは、世界の警察官を「辞める」対「辞めない」の戦いである。

アメリカの指針とキングメーカーであるキッシンジャーと CFR(外交問題評議会)はトランプに「アメリカは最早世界の警察官ではない」と宣言させたが、まだ警察官として世界に君臨している軍産複合体は「トランプ降ろし」の手を緩めない。北朝鮮(アジア)もシリア(中東)もアメリカの内戦の縮図である。

日本のマスコミと官僚が「安倍降ろし」の手を緩めないのも「トランプ降ろし」と同列である。戦後アメリカは自由と民主主義(リベラル)を旗印にヒト・カネ・モノの国境をなくし、世界を規制なき「小さな国家」の下で高度経済成長達成に導いた。アメリカはドルを基軸とした国際金融体制の下で後進国や発展途上国経済を先進国化し続けた。アメリカは自由・民主主義の価値観をアメリカと共有する自由主義陣営の安全をアメリカの負担で保障、世界の警察官としての役割を果たしてきた。アメリカによって作られ、発展、繁栄、維持されてきた世界を「リベラル世界秩序」と言う。本年3月21日前記 CFR 会長リチャード・ハースが「リベラル世界の死」という論文を発表した。CFRは戦後アメリカの「世界の警察官の産みの親」である。世界の警察官の産みの親として守ってきた戦後の「リベラル世界秩序の死」を宣言したのだから正に「アメリカのターニングポイント」であり「世界変転の時来る」である。

トランプは、シリアでの化学兵器使用はトランプの米軍シリア撤退宣言を不可能にする為の CIA(米諜報部)と MI6(英国諜報部)の裏耕作であることを承知で悪魔(アサド)退治の演出で英雄になり中間選挙を有利に運ぶと同時に、「朝鮮半島核廃絶方式は(中国ではなく)俺の方式(一括妥結)に従え、さもなくばミサイルが飛んでゆくぞ」と金正恩と文在寅を脅した。OPCW(化学兵器査察団)によるシリア化学兵器使用真犯人情報でトランプは軍産を脅すことになる。

トランプも敵の軍産(マチス国防長官)も「今回のシリア空爆は完ぺきに遂行された」と敵味方双方絶賛するが、やがて軍産は最悪の選択をしたことに気付くだろう。

増田俊男の「目からウロコのインターネット・セミナー」大好評配信中！

1ヶ月わずか約¥1,000！ご契約は1年単位になります

現在大好評配信中！「目からウロコのインターネット・セミナー」！視聴期間はお申込み翌月より12ヶ月となりますのでお申込み月は無料でご視聴頂けます。1か月の平均配信回数は4～6回になります。詳しいご案内、お申込みについてはマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX：03-3956-1313、HP：www.chokugen.com) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX：03-3956-1313) までお知らせ下さい。